協働契約　事業実施結果報告書

１　事業概要

受託者及び 代表者氏名	特定非営利活動法人み・らいず２ 代表理事　河内　崇典
事業名	尼崎市ユース相談支援事業

２　事業評価

（1）　協働側面の評価

実施手順

・下表について、相互に自己採点する。評価基準は次のとおりとする

Ａ（よくできた）、Ｂ（まあまあできた）、Ｃ（あまりできなかった）、Ｄ（まったくできなかった）

・結果を共有し、差異がみられる項目を中心に、原因や改善策等について意見交換を行う

・協議内容は「３総合評価」に記載する

・結果を共有する際は、衝突を恐れず、互いを尊重しながら、率直な意見交換を行うこと。

項目	団体等	所管課
１　事業計画（準備）段階		
⑴　課題や目標について共有し、理解し合うことができたか	Ａ	Ａ
⑵　相手の立場や組織、ルール等を共有し、理解し合うことができたか	Ｂ	Ｂ
⑶　それぞれの強み弱みを理解し、補い合いながら計画を立てられたか	Ｂ	Ｂ
２　事業実施段階		
⑴　率直な意見交換を行い、理解し合いながら、対等な立場で実施できたか	Ａ	Ａ
⑵　予定外のことについて、協力して対応することができたか	Ｂ	Ｂ
⑶　役割分担にとらわれて任せっきりにすることなく、主体的に関われたか	Ｂ	Ｂ
⑷　実施中に目標や進捗を共有し、改善しながら進めることができたか	Ｂ	Ｂ
その他（任意で設定する項目、項目数は不問）		
⑴		
⑵		
⑶		

⑵　事業効果の評価

実施手順

・事業実施前を目途に、協議・合意の上、一つ以上設定する

・事業の効果が客観的に測れるよう、受益者の評価など、アウトカム指標を原則とする

	項目	内容
1	評価指標	評価指標及び考え方等を記載 評価指標：ユース相談支援事業の新規申請者数 考え方：月３件（年３６件）の新規事業申請を確保する。
	測定方法	測定方法を記載 令和４年度のユース相談支援事業の新規申請者数を計上する。
	結果	実績値及びそれをどのように評価するのかを記載（過去の実績と比較するなど） 実績値：２６件 評価：令和２年度及び令和３年度の実績値は各年度３６件であり、令和４年度の実績は前年度と比較して低調だった。令和４年度にユース相談支援事業へ寄せられた相談は、ユース相談支援事業の支援対象年齢から外れた相談であったり、他機関を紹介したりする相談が多く、事業申請につながった相談は減少した。
２	評価指標	評価指標及び考え方等を記載
	測定方法	測定方法を記載
	結果	実績値及びそれをどのように評価するのかを記載（過去の実績と比較するなど）

３　総合評価

協働側面の評価
【良かったこと】 ・令和４年度は、ユース相談支援事業で実施する居場所事業のバリエーション拡充や、支援対象者のつなぎ先になる可能性のある関係機関の開拓など、受託者の強みを活かした取り組みを推進した。また、所管課においては市役所内外の関係機関との円滑な連携の補助や、各地域課と連携した地域の方への事業周知活動など所管課の強みを活かした取り組みを推進し、受託者と所管課の強みを活かした事業運営ができた。 ・支援対象者の支援は受託者が対応し、市役所内外の関係機関との連携推進や広報等事業運営の全体的な事項を所管課が対応するという大きな役割分担はあるものの、受託者と所管課がお互いの知見を活かして双方の活動に助言するなど、双方主体的に事業に関われた。 【今後改善が必要なこと】 ・受託者と所管課が双方主体的に事業に関わることができたが、所管課が支援に同行するケースでは支援のコーディネートや役割分担があいまいになるケースが見られたほか、オレンジリボンフェスタ出展や児童ホームでのボランティア等当事者活動の企画実施に大きな労力を要するものもあり、双方どの程度協力して実施すれば十分なのか迷う点があった。双方が主体的な関わりを推進することで改めて役割分担の重要性を認識した。 ・今後の対策として、事業を実施するうえで適宜情報共有をしながら、役割分担と実施方針をこまめに確認していくようにする。

事業効果の評価
【達成できたこと及び課題について】 ・所管課においては、令和３年度から引き続き実施している中学校訪問に加え、地域課と連携した地域の方への事業周知や、市ホームページの拡充等広報活動のバリエーションを増やしたほか、受託者においては、社会資源開拓の際に事業紹介を行うなどして、積極的にひきこもり支援や事業の広報を実施し、啓発セミナーや公開家族交流会などの集客増加につなげた。令和４年度の新規事業申請件数は前年度と比較して減少しているものの、事業広報や広報先を拡充できた。 ・事業申請した支援対象者に対して本人たちの意思を尊重した適切な関わりができており、受託者から所管課に対する例月会議でのモニタリングや随時の情報共有により、支援対象者の状況を共有しながら必要な市役所内外の連携を検討することができた。 ・当事者活動について、ゲーム・スポーツ・手芸等だけでなく、オレンジリボンフェスタへのブース出店や、出店に必要な品物作成を支援に組み込むなど、受託者と所管課が双方の強みを活かして総合的な事業運営をすることができた。 ・保護者等が自ら支援を探し、本事業を知る機会があった方で、ひきこもり状態も比較的重篤でない対象者からの事業申請が多い。ひきこもり状態が重篤であるなど、支援を必要とする対象者に本事業について知ってもらう機会を増やしていくことが課題である。 【今後の取り組みについて】 ・支援を必要とする対象者に本事業について知ってもらう機会を増やしていくために、関係機関向けの事業広報を継続しつつ、市民向けの広報にも注力する。 ・既に事業申請している個別ケースに関しては、今後も適宜情報共有しながら対象者の状況に応じた支援を、双方の強みを活かしながら実施する。
総評
・受託者と所管課が双方の強みを活かして、支援対象者を効果的に支援することができた。特に支援対象者が集まる居場所事業においては受託者の強みを特に活かして事業実施でき、所管課のひきこもり支援に対する考え方や実施手法等知見を広げることができた。 ・所管課においては受託者からのケースモニタリングや随時の情報共有により、支援に必要な庁内外の連携を推進することができた。 ・今後も双方の強みや意見をくみ取りながら、事業広報や事業実施に取り組む方向性を持てた。 ・上記のとおり、総合的な評価としては受託者と所管課で協働しながら前向きに取り組めた。